

エイゼンシュテイン生誕 110 年・没後 60 年 ロシア映画 100 年 ロシア・ゴスフィルモフォンド創立 60 年

『戦艦ポチョムキン』 メイド・イン・ジャパン

2008年12月4日(木)

第1部 16:00開会 第2部 18:30開会

会場 江戸東京博物館ホール
(東京・両国)

いま小林多喜二の『蟹工船』が空前のブーム。1953年の山村聰監督による映画化作品も再上映がはじまっています。そして原作を読んだ人も、映画を見た人も、多くの人がそこに『戦艦ポチョムキン』のイメージが躍動していることに気づいたことでしょうか。

事実、多喜二は『蟹工船』を書いた1929年、熱烈な映画愛好家で、チャップリンの喜劇や伊藤大輔の時代劇に熱い視線を注ぐとともにその多くが検閲で禁止されたソビエトの革命映画を“幻の名画”として渴望していました。その代表がエイゼンシュテインの『戦艦ポチョムキン』。「日本映画にも『戦艦ポチョムキン』を！」というアピールも書いています。その小説の映画化作品に『ポチョムキン』のイメージを見ることは必然です。

もし多喜二が80年前に『ポチョムキン』を日本で見られたとしたら……？ その楽しい空想のなかから、今回の《『戦艦ポチョムキン』 Made In Japan ~活弁と伴奏つき~の夕べ》の企画が生まれました。

澤登翠さんの日本の伝統を継ぐ「活弁」と、いまサイレント映画の伴奏に尽力する柳下美恵さんのピアノに、ロシアからのゲストの講演を加え、『蟹工船』で甦る小林多喜二とともに、世界映画最高の古典『戦艦ポチョムキン』の感動を共有しましょう。

第1部 シンポジウム

「エイゼンシュテインとロシア映画 100 年」

特別ゲスト ウラジーミル・ドミトリエフ

ゴスフィルモフォンド (ロシア国立映画保存所) 第一副所長

司会 山田和夫 エイゼンシュテイン・シネクラブ (日本) 代表・映画評論家

第2部 活弁・伴奏付き上映

『戦艦ポチョムキン』 (1925年、セルゲイ・エイゼンシュテイン監督)

活動弁士 澤登 翠

ピアノ伴奏 柳下美恵

料 金 前売・電話予約 2000 円

当日 2500 円

※エイゼンシュテイン・シネクラブで販売
(エイゼンシュテイン・シネクラブ会員無料)

お問合せ エイゼンシュテイン・シネクラブ

(03) 3369-7444 (山田)

080-5462-2389 (井上)

ino@t.email.ne.jp

主催 エイゼンシュテイン・シネクラブ (日本)

<http://eisenstein.jp/>

助成 財団法人セゾン文化財団

後援 国際シネマ・ライブラリー

ゴスフィルモフォンド (ロシア国立映画保存所)

日本ユーラシア協会

協力 マツダ映画社

ОБРАДОВАНОСЕЛО
ПОТЕМКИН 1905.